

津軽組子体験



営農課は1月16日、本店で1月の女性営農生活講座を開きました。

1月は、津軽伝統組子師の齋藤正美氏を講師に迎え、「津軽組子体験」を行いました。津軽伝統組子は、襖や欄間、障子などの建具を作る時に用いられる伝統的な技法です。

参加者は、溝や穴が掘られた木のパーツで、麻の葉や雪の結晶の模様の組子を組み立て、完成させました。



講師から組み立て方を教わる参加者

女性部JA役職員と語る会



女性部（中山静子部長）は1月14日、女性参画促進運動の一環として、JA役職員と語る会を本店で開き、女性部役員、JA役職員ら約30人が出席。

語る会では女性部役員からの、JA事業や各施設に関する意見・要望に対し、JA役職員が回答しました。

中山部長は「改善策を検討するとのことなので、今後のJA運営に生かされることに期待したい」と話しました。



意見・要望を述べる中山部長

農産物検査員鑑定競技会で最優秀賞受賞



1月9日、JA全農あおもりと青森県JA農産物検査競技会が開いた第20回青森県JA農産物検査員鑑定競技会で、北米穀センターの村上靖幸主任が最優秀賞を受賞しました。

大会には県内の8JAから36人が参加し、水稻うるち米ともち米玄米40点を30分以内で等級判定し、400点の持ち点から等級相違と時間超過による減点方式で採点しました。



最優秀賞を受賞した村上主任（左）

健康意識を高めるためのQOL健診



共済部は1月17日、本店で啓発型の健康診断「QOL健診」を開きました。JA共済の「地域・農業活性化積立金」を活用した地域貢献活動の一環として実施。当JAの組合員ら約30人が参加し、問診、血圧、ベジチェック（野菜摂取量）など11項目の測定を行いました。

測定後に行った健康教養講義では、弘前大学大学院の三上達也先生が講師を務め、生活習慣予防への食事方法などについて説明し、日々の運動を心がけるよう呼び掛けました。



測定を行う参加者